

乗務員教育記録簿用紙

西北交通株式会社

乗務員への指導・監督の記録

実施月日	令和7年10月14日
時間	8時5分～10時00分
場所	北上本店営業所

検印

非公開

非公開

営業所名 北上本店営業所 矢巾営業所

【一般的な指導事項】

- ①事業用自動車を運転する心構え
- ②事業用自動車の運行の安全及び旅客の安全を確保するために遵守すべき基本的事項
- ③事業用自動車の構造上の特性
- ④乗車中（運行中）の旅客の安全を確保（シートベルトの着用等）するために留意すべき事項
- ⑤旅客が乗降するときの安全を確保するために留意すべき事項
- ⑥主として運行する経路若しくは、経路又は営業区域における道路及び交通の状況
- ⑦危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法
- ⑧運転者の運転適性に応じた安全運転の指導
- ⑨交通事故に関わる運転者の生理的（睡眠不足等）及び心理的要因並びにこれらへの対処方法
- ⑩健康管理の重要性
- ⑪安全性の向上を図るための装置を備える事業用自動車の適切な運転方法
- ⑫ヒヤリハット体験の報告や運転にかかる苦情の申し出、又は事故が発生した場合には当該運転者に対してドライブレコーダーにより必要な指導を行う
- ⑬⑭のドライブレコーダーの記録を活用したヒヤリハット体験を共有する
- ⑯非常信号用具、非常口、消火器の取り扱いの指導

※ 危険の予測及び回避並びに緊急時における対応方法

1 危険予測運転の必要性

事故を起こさない運転をするためには、「危険の予測」即ち、見えない危険を読む力を持つ、気象状況や周囲の状況に目を配ることが必要であることを、事故事例を説明等して理解しましょう。

2 危険予測のポイント

①道路を利用する歩行者や自転車などの行動特性に応じた配慮

道路には、歩行者（降車した乗客を含む）、自転車、二輪車・原付、他の車両などが行き交っていますが、それぞれの行動特性を理解することで、走行時に配慮ができ、事故を回避できる運転ができる認識しましょう。

②悪天候・夜間の危険への配慮等

悪天候や夜間においては、事故発生のリスクが高まります。どのようなリスクがあるのかを理解・確認し、危険への配慮とともに、慎重な運転をすることで事故を回避できることを認識させましょう。加えて、緊急時における適切なハンドル・ブレーキ操作の重要性についても理解させましょう。特に、貸切バスの運転者に対しては、実際に運転する自動車等を用い緊急時ににおいてもブレーキを適切に操作できるよう静止状態において繰り返しブレーキを強く踏み込練習をしましょう。

3 危険予知訓練

「危険予知訓練」は、実際に、バス運行の交通場面では、どのような危険があるか、乗客の安全をどのように確保すればよいのか、どのような運転をすればよいのかを考える訓練です。集団教育等に活用し、運転者に危険回避方法などを指導する。

裏面へ

指導・教育の内容	4 指差呼称及び安全呼称
	日常点検や運転行動は、慣れとともに、つい漫然と行ってしまいがちです。「指差呼称」・「安全呼称」を習慣づけることで、各動作が顕在化し、運転者の集中力が高まります。
	運転者のヒューマンエラーの防止と、教育内容の実践をより確実なものとするため、「指差呼称」・「安全呼称」を活用した指導を行う。
	5 緊急時における適切な対応
	①交通事故や車両故障が発生した際の対応
	交通事故や車両故障が発生した場合は、運転者は即座に「負傷者の救護」、「道路上の危険の除去」、「乗客の安全確保」、「警察への報告」、「事業者への報告」等を行わなければならぬことを、きちんと指導しましょう。
	②自然災害の発生に備えた対応
	運転者においては、大雪等の自然災害のおそれがある場合に、事故防止の観点から適切に対応することが求められます。そのため、運行管理者等のみならず運転者自身も気象等に関する情報を収集・把握することや、あらかじめ災害に遭遇した際の対応方法を把握しておくことが必要であることを運転者に強く認識・自覚させましょう。
	※ 10月の重点管理（薄暮・夜間の安全運転を指導しよう）
	【薄暮・夜間の事故防止】暗い道 上向きライトで安全確認
● ライトを上手に活用して視界を確保する	薄暮・夜間は視認性が悪化するため、早めのライト点灯とハイビーム走行により、クリアな視界を確保することを指導する。
	● 速度を落として危険予測に徹する
	薄暮・夜間は危険の発見が遅れやすい。昼間よりも速度を落とし、周囲の状況に目を配って危険を予測した運転を呼びかける。
● ライトの眩惑に注意する	他車のライトが眩しいときは直視せず、対向車や全車がいるときはロービームに切り替えて相手を眩惑させないように指導する。

非公開